

石川県立美術館だより

第516号 令和8年10月1日発行

BIJUTSUKAN
DAYORI

特別展 蓮田修吾郎 ー世界を拓く窓



蓮田修吾郎《銅浮彫「黒豹スクリーン」》
1953年 個人蔵 撮影：濱崎敏彦

- 加賀藩の美術工芸【前田育徳会尊経閣文庫分館】
- 琳派Ⅱー相説と草花図の広がりー【古美術】
- 県美工芸の新しい仲間たちー新収蔵品展ー【近現代工芸】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】

- ミュージアムレポート 令和8年度博物館実習
- 名品にズームイン！VR体験会
- 令和8年度土曜講座のお知らせ（10・11月分）
- ミュージアムショップからのお知らせ
- 10月の行事予定
- 秋もみんなで美術館！

企画展(第7～9展示室)

特別展 蓮田修吾郎 ー世界を拓く窓

主催/石川県立美術館 特別協力/北國新聞社

後援/NHK金沢放送局、MRO北陸放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送、石川テレビ放送

9月20日(日)～10月25日(日) 会期中無休

金沢市出身の蓮田修吾郎(1915～2010)は、金属工芸・彫刻・建築の分野を横断する独自の作風を確立した作家です。石川県立工業学校(現・石川県立工業高等学校)卒業後、東京美術学校(現・東京藝術大学)で鑄金を学びつつ、彫刻やデザインなどにも目を向けながら作品制作をおこないました。

卒業後は、日展や日本現代工芸美術展、グループ展などを舞台に作品を発表していきます。浮彫やスクリーン形態の作品で評価され、方壺シリーズで立体構成を試み、自身の表現を追求しました。また、ドイツを訪問し造型作品が環境に調和していることに衝撃を受けてからは「建築と接点を持った金属造型」がテーマに加わりました。美術・工芸が社会の中で果たす役割についての思考を反映したモニュメントをさかんに制作しながら、自身が主宰した日本金属造型研究所を基盤に、日独の国際交流を促進する活動を精力的におこないました。広い視野をもち、金工の概念を飛び出すように確立させた「金属造型」は、蓮田が拓いた独自の世界といえるでしょう。

本展は、蓮田修吾郎の軌跡を、その代表作はもちろん、貴重な初期作品やデザインの仕事、関連資料などと併せて紹介するものです。蓮田の人と活動を深く掘り下げる、これまでにない機会となるでしょう。ぜひご来館いただき、「金属造型」の世界を味わっていただければ幸いです。

【観覧料】

一般 1,000円(800円)
大学生 800円(600円)

※高校生以下無料

※(一)内は20名以上の団体、及び65歳以上の料金

※2階コレクション展観覧料を含む

※身体障がい者 精神障がい者 保健福祉・療育手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方、および付き添いの方1名は観覧無料

【関連行事】

・土曜講座

①「蓮田修吾郎ー世界を拓く窓」

10月3日(土) 13時30分～15時

講師…竹内唯(当館学芸員)

②「かたちをつくるー蓮田修吾郎と大樋年朗」

10月10日(土) 13時30分～15時

講師…奈良竜一(当館学芸員)

いずれも 会場…当館 講義室

※参加無料、申込不要

・ギャラリートーク

作品を前にして、見どころをお話します。

10月12日(月・祝) 14時～15時

会場…当館 企画展示室

※要観覧券、申込不要

・対話で！作品鑑賞会

10月11日(日) 11時～11時30分

会場…当館 企画展示室

※要観覧券、申込不要

・コラボスイーツ

会期中、館内カフェ「ルミユゼドウアツシユKANAZAWA」にて、展覧会をイメージしたコラボスイーツを提供いたします。



《悠麗》

1991年(石川県金沢市・金沢駅西広場)
©石川県観光連盟



《新西橋モニュメント》

1993年(富山県射水市・新西橋)

すべて 蓮田修吾郎 作

加賀藩の美術工芸

9月19日(土)～10月25日(日) 会期中無休

今号では、『加賀藩の美術工芸』にて展示する作品の中から、いくつかご紹介いたします。はじめに漆工作品から《黒塗蒔絵文台・硯箱》です。文台と硯箱が一對となった作品で、薄が文台は左方から、硯箱は右方から伸び、加えて大きく月が昇ろうとしています。文台と硯、共に用いられることを想定してデザインされたもので、黒漆は秋の夜長を表すにふさわしく、蒔絵で月夜に輝く薄をあらわしています。

つづいて、陶磁器からは、『瑠璃地草花文平鉢』を紹介いたします。白釉による点描や線描で草花文が表されています。正月に飾る餅花に似ていることから、「餅花手」と呼ばれます。中国の明代につくられた大きな皿で、前田家には、こうした中国からの文物も多く遺されています。

大量の名物裂も、主に中国から長崎へ入ったものを、前田家三代利常の時代に購入しました。「大徳寺金襴」とも「尊氏金襴」とも称される《変わり石畳文様金襴》は、石畳と四弁花を組み合わせて模様が構成されています。大徳寺の雲門庵に大内義隆が奉納した打掛の文様、あるいは足利尊氏の甲冑の裂の文様との伝承が、その名の由来となっています。

なお、9月から前田育徳会尊経閣文庫を広く知っていただくため、講座とギャラリートークを開催しています。展示とあわせてご来館をお待ちしております。



《瑠璃地草花文平鉢》

学芸員の眼

蓮田修吾郎は全国に多くの野外モニュメントを制作しました。特別展の開催にあたって、なるべく多くの野外作品を巡ろうと努めました。北は北海道根室市、南は長崎県島原市まで。一般公開されている現存の作品はほとんど実見できたと思います。造型性に富んだ作品たちはどれも、風景に調和し佇み、しかし確かな存在感をもって立っていたように思います。

蓮田は、モニュメントを制作するにあたって、地域に生きる人々に広く楽しまれ、長く愛される作品を目指しました。「何度見ても見飽きない」と言われると喜んだといいます。都市空間や環境を展示の場として大きくとらえ、社会の中で力を発揮する造型作品を制作する行為は、蓮田の考える「広義の「用」」をひらいていくことでもありました。

今号では、モニュメントの画像をいくつか並べてみました。展示室ではもっと多くの作品を紹介しておりますので、ぜひ会場でもご覧ください。



《四島のかけ橋》
1981年（北海道根室市・納沙布岬）

近現代工芸(第5展示室)

県美工芸の新しい仲間たち —新収蔵品展—

9月19日(土)～10月25日(日) 会期中無休

今回は人形と陶磁作品を紹介しましたが、引き続き、展示作品を見ていきましょう。

まず、令和6年度の特別展「食を彩る工芸」の制作作品から4点。多田幸史の《葉紋白金彩組鉢》は、粘土を削り出して文様をレリーフ状に浮き上がらせて、さらに上絵で銀彩や白金彩などの金属彩を施します。滴のように盛り上がる銀彩がきらりと輝きを放っています。中田博士の《真珠光彩片口》は、真珠のようなキラキラした光を纏った酒器で、はくちよう 鶴をモチーフとした愛らしい造形となっています。宮本雅夫《緑彩真麗線文酒器揃》は、徳利とお猪口が一组になっている酒器で、組み合わせるとしなやかに伸びるフォルムが目を楽しめます。グラデーションとなるようにかけられた緑色の釉薬の美しさも見どころの一つで



竹内吟秋《色絵楼閣山水図平鉢古九谷写》 撮影：濱崎敏彦

古美術(第2展示室)

琳派Ⅱ —相説と草花図の広がり—

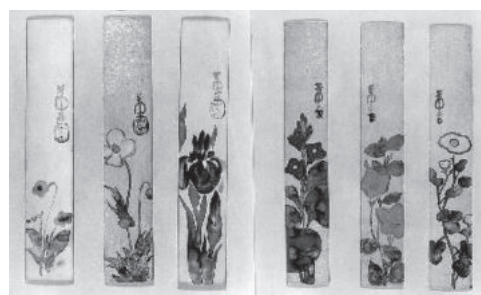
9月19日(土)～10月25日(日) 会期中無休

9月から始まった本特集では、琳派と呼ばれる作家たちのうち、俵屋宗雪の次世代をになった喜多川相説や、定型化して広まっていった伊年印草花図、さらには18世紀以降に江戸や上方で生まれた琳派に連なる作品をご紹介します。

今回久しぶりの公開となる中村芳中(？) 1819)の《草花図短冊》は、短冊という極端に縦長な画面に、巧みに草花を配する芳中のデザイン感覚が見て取れる優品です。芳中は京都に生まれ、大坂で活躍した絵師で、尾形光琳の画風を学んだと言われています。寛政11年(1799)には江戸に下つて数年間過ごしたようです。初めは文人画を描いていたようですが、光琳に傾倒して「たらし込み」を多用した琳派風の草花図、軽妙な俳画などを多く描

きました。本作品もそうしたもののひとつです。「江戸琳派の祖」として知られる酒井抱一(1761～1828)と同じ時期に活動していましたが、2人の間に直接的な交流はなかったと考えられています。

一方18世紀の江戸では、俳諧をたしなむ人々の間で、俵屋宗理(生没年不詳)なる絵師の作品が流行していました。江戸の美意識を反映した朝顔図などで人気を博した絵師で、江戸琳派の先がけといわれています。今回展示する《夏秋草図》は、状態があまりよくないものの宗理周辺の作例である可能性があります。



中村芳中《草花図短冊》個人蔵

令和8年度博物館実習

石川県立美術館では、学芸員養成課程を設置する大学から依頼を受け、学芸員の資格取得の必須科目である博物館実習のうち、6日間の館園実習を行っています。今年度は金沢美術工芸大学・金沢学院大学・富山大学の4年生9名が受講しました。

1日目は、オリエンテーションで始まります。大学でどのようなことに取り組んでいるか、卒業制作のテーマ、最近印象に残った展覧会などを交えて自己紹介しました。学芸員の資格取得を目指す皆さんですが、美術への携わり方、関心事はさまざま、互いの話に思わぬ発見もあるようです。全員で協力し合いながら実習を進めます。

作品の取り扱い実習は3日目から始まりました。当館は江戸時代以前の作品から、近現代の美術作家

の作品まで収蔵しているため、分野別に3日間に分けて行います。最初は日本画・油彩画・彫刻といった純粋美術作品です。自分の背丈を超えるような大きな作品が多く、複数人で声を掛け合いながら作業を行います。逆に、江戸時代以前の古美術作品は小さな作品ばかりで、注意力と集中力が必要です。紐のかけ方にもきまりがあり、大学で習っている、緊張のあまり忘れてしまうことも。近現代の工芸作品の取り扱いでは、どのような工程を経て作品が出来上がるのか、あわせて説明を聞きました。

その他、教育プログラムの作成や併設の修復工房見学もあわせて充実の6日間。資格取得まで、がんばってくださいね。



工芸作品の取扱実習から

優品選

9月19日(土)～10月25日(日) 会期中無休

日本画分野では、木島櫻谷《咆哮》を紹介します。櫻谷は鈴木派の今尾景年門下で、京都画壇で若くから頭角を現した作家です。主に動物を叙情豊かに捉えた作品で知られ、本作でも、虎の咆哮に逃げ惑う鹿の群れを、ドラマティックに6曲1双の屏風に仕立てました。明年は櫻谷の生誕150年を記念する特別展が東京、京都の2会場を舞台に開催予定。楽しみです。

油彩画分野からは西田伸一《思秋》を展示します。黒いコートに身を包む西田自身の娘をダブルイメージで構成しています。秋の冷気に対峙する、自立した二人の女性像を作り上げ、日展二度目の特選作となりました。乳白色のバックは抽象性を帯び、黒いコート姿をよりシャープに見せています。

版画分野から紹介の、真宗大谷派の寺の住職でもあった高光一也のリトグラフ《樹心仏地》は、日常生活の中で最も親しんでいた親鸞の「心を弘誓の仏地に樹て」の教えを表した作品です。地中深く根をはる樹木のように仏法の大地にしっかりと立ちたいという高光の想いが、赤を背景に黒く強い線で表現されています。

彫刻分野からは三谷慎《曲芸師》をご紹介します。軽やかに舞い踊るように、片足立ちで手足を四方に伸ばした曲芸師です。軽やかな印象ながら、伸ばされた手足の絶妙なバランスによって緊張感のある空間を演出しています。人体の構成、ポーズや指先まで細やかな配慮がなされた作者の優品といえましょう。



木島櫻谷《咆哮》

名品にズームイン！VR体験会

当館VRシアターでは、最先端の映像技術を活用して、石川県立美術館・前田育徳会が所蔵する国宝や重要文化財などの名品を、様々な視点からご紹介しています。

普段シアターの映像作品でご覧いただいている5作品を、より皆様にご堪能いただけるよう、8Kの高精細画像とVR（仮想現実）から再現した3Dモデルで、普段の展示では見るのが難しい細部、裏側、内側の部分…などを鮮明な高精細のVR画像ならではの見どころを楽しんでいただくプログラムです。ご自身でVRモデルを専用コントローラーで操作しながら、肉眼ではなかなか見ることのできない、デジタルコンテンツならではの体験をしてみませんか？

日 時…11月14日（土） 13時30分～15時
会 場…当館VRシアター

（2階コレクション展示エリア内）

要コレクション展観覧料

参加方法…申込不要。当日直接会場にお越しください。

*入退場自由 *小学生以下は保護者同伴。

登場予定VR作品

13時30分～ ①国宝《色絵雉香炉》、重要文化財《色絵雌雉香炉》

13時50分～ ②国宝《金沢本万葉集》

14時10分～ ③国宝《太刀 銘光世作（名物大典太）》

14時30分～ ④松田権六作《蓬萊之棚》

各回の冒頭に3Dモデルデモを実施、具体的な見どころを学芸員が解説します。

操作時間はおひとり3～5分程を予定。参加者多数の場合は、お待ちいただくこともあります。



令和8年度土曜講座のお知らせ(10・11月分)

5月より開講している土曜講座は、開催中の展覧会に関連したテーマや、当館学芸員が日ごろ研究しているテーマでおこなうものです。今回は10月・11月分をお知らせいたします。

時間は毎回13時30分より15時まで。事前申し込み不要、聴講無料です。気軽にご参加ください。

※都合により内容を変更、または中止する場合があります。最新情報は当館公式ウェブサイトでご確認ください。

※冬季に館内ホール及び講義室の改修工事をおこなうため、今年度の土曜講座は11月で最終となります。ご了承くださいますよう何卒お願い申し上げます。

月／日	テーマ	担当
10月3日	蓮田修吾郎 ―世界を拓く窓	竹内 唯
10月10日	かたちをつくる ―蓮田修吾郎と大樋年朗	奈良 竜一
11月21日	13代前田齊泰 ―「能楽」をつくったお殿様―	村上 尚子
11月28日	高光一也とゆかりのある油彩画家たち	久田 佳歩

ミュージアムショップからのお知らせ

石川県立美術館のミュージアムショップでは、当館収蔵品をモチーフにしたグッズや展覧会図録、古九谷の写しなど、バラエティ豊かな商品を取り揃えております。今回は根強い人気商品をご紹介します。当館でしか手に入らないオリジナルグッズです。

「Tシャツ雉香炉」サイズS、M、L、XL（1着2,700円）

当館コレクションの目玉である国宝《色絵雉香炉》（黒地）・重要文化財《色絵雌雉香炉》（白地）をあしらいました。秋のお出かけに着こなしてみるのはいかがでしょうか。シンプルだけど一味違うデザインは話題になること間違いなしです。お好きなコーディネートで楽しみたいですね。

ほかにも九谷焼文様のマスキングテープ、加賀友禅文様のポチ袋……など、石川ならではの人気商品をお取り扱いしております。お問い合わせは左記の宛先までどうぞ。

石川県立美術館総務課

ミュージアムショップ担当

電話：076-231-7580

ショップのご案内

<https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/guide/shop/>



秋もみんなで美術館！

10月の行事予定

■対話で！作品鑑賞会

毎月第2日曜日、作品についておしゃべりしながら展示作品を楽しめる日「のびのび鑑賞デー」の恒例開催です。今月は特別展「蓮田修吾郎－世界を拓く窓」の展示で学芸員のサポートのもと、参加者同士で対話しながら作品鑑賞をおこないます。

10月11日（日）11時～11時30分

集合場所：1階 企画展示室前

定員：10名程度（先着）

*要観覧料、申込不要

■前田育徳会尊経閣文庫分館 講座

加賀藩前田家が築いた知の宝庫「尊経閣文庫」をご紹介します。講座。

10月17日（土）13時30分～14時30分

「近代における網紀顕彰と前田育徳会尊経閣文庫」

講師：本康宏史氏（金沢星稜大学特任教授）

会場：講義室 定員40名（先着）

*聴講無料、要WEB申込

*お問い合わせ：石川県文化振興課

（電話）076-225-1371

（平日のみ9～17時）



申込フォーム

当館コレクションをお子さまにお楽しみいただくため、左記のプログラムを常時ご用意しています。2階コレクション展示受付でお申し付けください。（いずれも無料配布、2階コレクション展示室は高校生以下無料）

■ビンゴでびじゅつかん 【目安：小学生以下】

ビンゴカードに描かれたものを展示室で見つけ、たくさん穴をあけてみよう。

■キッズガイド「美術館をたんけん！」

【目安：小・中学生】

「みるみるくん」たちキャラクターが美術館の楽しみ方を案内する展示室マップ。作品をみて、想像したことを書きこんでみましょう。



ビンゴでびじゅつかん

《秋草図屏風》あきくさずびょうぶ

縦160.0 横410.0 (cm)

江戸時代・17～18世紀 石川県指定文化財

喜多川相説 きたがわそうせつ

生没年不詳



素地に薄、萩、菊、秋海棠、女郎花、芙蓉、桔梗など20種類以上の秋の草花を描いた6曲1双の屏風です。草花は、右隻では右手前から左奥へ、左隻では右奥から左手前へと斜めに配され、1双を左右に並べたとき、あたかも大きな円弧を描く道が浮かび上がるように構成されています。右隻の第2扇には、当時日本へ渡来したばかりの玉蜀黍が描かれています。その実は現在のものに比べると小振りです。また左隻の第1、2扇に描かれている檀特も、園芸目的で17世紀に移入された植物です。

17世紀半ばの京都では、長きにわたる戦乱がようやく終わり、貴族たちの間で文芸復興に対する機運が高まっていた。本草学に対する興味もその一環で、公家や大名の間で珍しい草花の栽培がおこなわれていました。そうした背景をふまえると、本作品は、美しく手入れされた高貴な人の庭に迷い込んだかのような気持ちにさせてくれます。

次回の展覧会

令和8年10月30日(金)
～12月7日(月)

前田育徳会
尊経閣文庫分館

前田齊泰
—《来殿》と《富有園》—

第2展示室

石川県の文化財

第3・6展示室

優品選
【近現代絵画・彫刻】

第4展示室

特別展示
没後40年 高光一也
【近現代絵画】

第5展示室

特別展示
県工の工芸・デザイン
—石川県立工業高等学校
創立140周年記念—

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

10月5日は第1月曜日より

コレクション展観覧無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

10月の休館日は
26日(月)～29日(木)

石川県立美術館だより
第516号(毎月発行)
2026年10月1日発行

〒920-0963

金沢市出羽町2番1号

Tel: 076(231)7580

Fax: 076(224)9550

URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。

和歌山県の紀州南高梅干しの種を抜き、丁寧にめらめらに練り上げた「梅見月(うめみづき)」のねり梅。梅本来の芳醇な香りと、爽やかな酸味が食欲をそそります。

種なしお手軽!! 紀州南高ねり梅。

4袋以上ご購入で **送料無料** (税込)

1袋 150g **650円** (税込) 送料500円 [1～3袋の場合]

お持ち帰り、お弁当・お料理に。サツとひと搾り!!

●商品お届けまでに1週間～10日程度かかります。ご依頼様以外のご住所へは発送できません。●お支払いには商品が届いてからOKです。(郵便コンビニ兼用振込用紙が入ります)但し、7袋以上のお買い上げの場合は代金引換とさせていただきます。(代引き手数料当社負担)。

●商品にはカタログ、価格表等が同封されます。●のし包装は承れません。●食品につきお客様都合による返品はお受けできません。●お預かりした個人情報等は商品の発送サービスのご案内のみに使用致します。

広告

お申し込みはお電話で 受付時間8:00～17:30 [土(不定休)・日・祝休み]

050-1883-2308

マルヤマ食品株式会社 会社TEL: 03-3953-0040 〒645-0027和歌山県日高郡みなべ町西本庄1282